

国語科学習指導案

平成 29 年 11 月 14 日

1 単元名 徒然草の人生訓を紹介する（2年）

2 単元の目標

- 「徒然草」の世界観や作者のものの見方・考え方に触れ、「徒然草」の作品としての魅力や作者の人間性に対して自分の考えをもとうとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

- 「徒然草」に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて、自分の考えをもち、「人生訓」を紹介することができる。

(読むこと エ)

- 「徒然草」に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いを想像することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
・「徒然草」の世界観や作者のものの見方や考え方に触れ、「徒然草」の作品としての魅力や作者の人間性に対して自分の考えをもとうとしている。	・「徒然草」に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて、自分の考えをもち、「人生訓」を紹介している。(読むこと エ)	・「徒然草」に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いを想像している。(ア (イ))

4 単元について

(1) 単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、古典「徒然草」に描かれている「人生訓」を紹介するという言語活動を行う。

中学校学習指導要領第2学年「読むこと」の言語活動例にア「詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること」とある。「徒然草」に描かれた世界観や作者の思いを想像し、そこから感じたことを「人生訓」として級友に紹介する言語活動を行う。一般的に作品から読み取れる人生訓を紹介するのではなく、中学2年生が今まさに抱えている悩みを解決する道しるべとなるような人生訓を紹介させたい。この活動は、古典の内容理解にとどまらず、内容理解をしたうえで、相手の悩みに応じた人生訓を紹介するための読む力が求められるものである。古語の意味の解釈にとらわれず、生徒一人一人の感性を大切に、「徒然草」をどう読むかというテーマと常に向き合わせ

たいと思う。同じ作品（章段）であっても、生徒個々によって微妙に解釈が変わってることが予想される。そこにまた、面白さを感じる。さまざまな「人生訓」に触れ、「徒然草」の世界観や作者の考え方に対する自分の考えを広げ、さらに今後の日常生活においてもさまざまな角度や見方から考えられる、柔軟な発想を身につけてほしいと思う。また、音読を通して古典の言葉に触れさせ、内容理解に役立てたい。

「徒然草」は鎌倉時代末期、吉田兼好が記されたとされる随筆である。この作品に描かれている章段は、243段。僧の滑稽話から国を司る天皇の話、作者の日常生活に至るまで、さまざまな話が盛り込まれた、読み応えのある作品である。一つ一つの章段からは、吉田兼好独自の人や自然に対する見解が感じられ、一見すると、笑い話に捉えられるような章段であっても、そこには吉田兼好の、社会を風刺するような鋭い視点、批評めいたものが伺える。本時は、「徒然草」の「人生訓」を紹介する言語活動を行うが、読み手によって、さまざまな解釈ができる「徒然草」は、生徒のものの見方や考え方を広げるにあたり、適した教材だと考える。作者が驚くようなさまざまな解釈が生徒から発信されることを期待したい。

(2) 単元で身につけさせたい力

本単元では、「徒然草」の内容理解に加え、相手の悩みに応じた「人生訓」を紹介するという言語活動を行う。中学校学習指導要領第2学年「読むこと」のエ「文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめること。」をねらいとし、「人生訓」を紹介する際、今までの自己の生活を振り返り、相手の悩みを理解するとともに、どのような「人生訓」であれば相手の心に響き、悩みを解決することへとつながるか、また、その「人生訓」を導くにはどの章段が適しているのか、知識や体験と関連付けて、文章を様々な角度から読み、自分の考えを形成する力を身につけさせたい。班での話し合いのなかでは、ただ「徒然草」の「人生訓」を導き出すのではなく、班員全員でそれぞれの知識や体験を共有し、深まりのある意見を形成させたい。一つ一つの章段に対してさまざまな解釈が出てくることが予想される。しかし、その解釈があまりにも外的なものでは、本時のねらいである、「徒然草」を「読み深める」ことにはならない。学習プリントや評価プリントを集め、生徒一人一人の読みとりに対してコメントを入れながら、生徒の解釈を広げ、深めさせていきたい。

(3) (1) (2) の基盤となる言語環境や継続的な取組

第1学年の学習では「故事成語」の学習において、国語便覧を活用し、班ごとに故事成語の意味や、もとなった故事の内容を理解したうえで、故事成語の正しい使い方を相手にわかりやすく伝えるために、「寸劇」を創作し、実演する活動を行った。この学習では、故事成語の意味を正確に、いかにわかりやすく伝えるために、それぞれの班で

どんな工夫ができるかが重要である。「故事」の解釈と大きくずれないように注意して、具体的な台詞を加えたり、イメージしやすいように、現代の言葉や事柄に置き換えて寸劇を創作したりと、さまざまな工夫を凝らし、「相手を意識した」学習ができた。

2学年の学習では、「枕草子」の発展学習として「オリジナル枕草子」の創作を行った。清少納言の独特な視点を学習したうえで、他の人にはなかなか気づかない、他の人が注目しないような、独自の感性・視点を大切に創作させることを心がけた。また、「新しい短歌のために」の発展学習として、短歌の意味を理解したうえで、短歌の世界観を相手にわかりやすく伝えるために、歌物語を創作した。自分にしかわからないような表現は用いず、誰が読んでも理解でき、短歌の情景や作者の思いを想像しやすい表現を用いることを意識させた。

これらの学習は、古典作品の内容、世界観の内容理解をさらに深めるため、また、古典作品と自分の知識・体験とを関連付けて、表現することで、苦手意識をもちやすい古典作品を、より身近なものとして捉えることをねらいとした。

また、小学校の国語科の学習では、中学1年生で学習する「枕草子」や中学2年生で学習する「平家物語」(冒頭文)の暗唱をする学習をしてきており、古典作品を「音読する」学習を主な学習としている。特に、百人一首の和歌を意欲的に暗唱したという生徒が多く、中学1年生時の百人一首の取組において、小学校で暗唱した和歌に加え、さらに多くの和歌を暗唱しようと意気込む姿が見られた。中学校では、古典作品の音読を、よりスムーズかつ正確に行い、内容を深く読み取ることをねらいとしたい。本単位においても、毎時間最初に音読をさせることで、内容理解に役立てる手立てとする。

本単位を通して、自己を表現する際に常に「相手」を意識すること、それにより、自身の理解をさらに深めることに気づかせ、さまざまな角度から自己の考えを形成していく力を身につけさせたい。

本単元では、さまざまな章段に触れる。その章段の内容を正確に読み取る力だけでなく、「悩み」＝「相手」を意識して、解釈をする力が求められる。一人一人の意見を班で大切に共有し、「悩み」を解決する最善策を班で協力して、考えてほしいと思う。

《悩みに関するアンケートの結果》 実施人数：男子67名 女子85名（4クラス）

ほとんどの生徒は、特別に悩みを記入していなかった。回答した生徒の悩みは以下のとおりである。

- ・全く眠れない。(寝不足)・ホームシックになる。・人と意見が合わない。
- ・自己主張の激しい人がいる。・勉強がわからない。(文法・漢文)
- ・自分の好きなこと(サッカー)が楽しすぎる。
- ・勉強に集中できない。・周りの目を気にして、発表できないこと。・成績が伸びない。
- ・楽しいことだけしたい。・勉強の仕方がわからない。・やる気が出ない。
- ・メリハリがつけられない。・部活動(精神的にハードすぎる日程)・背が伸びないこと
- ・部活動の後輩が心配・親、兄弟がうるさい・意見が合わないこと・運が悪いこと
- ・面倒なことは後回しにしてしまうこと・人の悪い部分をさぐってしまうこと
- ・嫉妬深い・人を傷つけやすい・素直に自分の気持ちを表現できない。
- ・時間がない。・朝に弱い・友達の考えていることがわからない。・ケガをしやすい。
- ・友達と仲良くなりたい。・夢が見つからない。

上記の内容は該当する生徒が限定されてしまい、悩みに応じた章段及び人生訓を考えることは難しいと考え、下記の悩みを生徒に示し、どの悩みを解決するかを班ごとに選択させた。

- | |
|---|
| <p>①勉強…学習内容が理解できず、勉強の仕方がわからない。そのうえ、集中力がなく、勉強に対するやる気が出ない。どうすれば、成績が上がるのか。</p> <p>②対人関係…相手の考えていることがわからず、人(友達や家族など)と意見が合わなくて、困っている。また、人の悪い部分ばかりに注目してしまい、相手を傷つけてしまうことがある。どうすれば、周りとうまくできるのか。</p> <p>③部活動…きつい練習が多く、いつも心がくじけそうになる。大事な試合ではミスをして、落ち込むことがある。どうすれば、技術が向上し、強い選手になることができるのか。また、後輩が心配であるが、どう接すればよいかわからず、困っている。</p> <p>④その他Ⅰ…好きなことに夢中になりすぎて、ついつい面倒なことは後回しにしてしまい、メリハリがつけられなくて困っている。そのため、いつも「時間がない」と忙しさを感じている。</p> <p>⑤その他Ⅱ…ケガをしやすく、「自分は運が悪い。」といつも思っている。また、背がなかなか伸びないことにも悩んでいる。</p> |
|---|

6 単元の指導計画

時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「徒然草」と作者（吉田兼好）について、成立年代・時代背景などを確認し、どのような人物がどのような作品を書いたのか理解する。 ・学習の見通しを知り、どのような力を身につけようとしているのかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元に入る前に、「今、悩んでいることについて」のアンケートを実施する。結果は、第3次の授業の冒頭で生徒に示す。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「仁和寺にある法師」（教科書掲載）を音読し、大まかなあらすじを理解する。 ・班ごとに「仁和寺にある法師」から読み取れる「人生訓」を考え、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代語訳及び注釈（「ビギナーズクラシックス 徒然草」角川文庫）を配布し、内容理解や「人生訓」を考えるときに活用できるようにする。（第3次以降も同様に使用する。）
朝読書の時間に「徒然草」（「ビギナーズクラシックス 徒然草」）を読む。		
3 4 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・中学2年生の悩みを知る。（アンケート結果の把握） ・教科書に掲載されていない章段の内容を読み取り、「人生訓」を考える。（班） 《班の構成》 <ul style="list-style-type: none"> ・4人班×9グループ（うち、2グループは5人班） ・司会者は固定し、話し合いが円滑に進むように意図的にグルーピングを行う。 ・悩みに応じた章段を選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を分析し、 ①勉強 ②対人関係 ③部活動 ④その他Ⅰ ⑤その他Ⅱ の大まかな5つに悩みを絞り、授業冒頭に生徒に示す。 ・5つのうち、どの悩みを解決するか決めた後、その悩みに応じた章段及び人生訓を考えさせる。悩みを解決する章段は、複数選択してもよい。 ・悩みに応じた章段を選択する際、根拠を十分に話し合わせる。 <p>◇章段の内容を理解し、そこから導き出される「人生訓」を考えている。</p> <p>◇悩みに応じた章段及び「人生訓」を、根拠を明らかにして選択している。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・「徒然草セラピー」（悩みに応じた章段及び「人生訓」を紹介する。）を行う。 《発表方法》 <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ4分 ・内容 ①どんな悩みを解決するか 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みを選んだグループでまとめて学級全体で発表を行う。 ・発表を聞き終えた後、評価をつけさせる。 <p>《評価の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩みに対するすっきり度（悩みを解決

<p>②章段のあらすじを簡潔に説明 ③悩みを解決する「人生訓」 ④①と③の根拠の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表に対して、悩みに応じた章段及び人生訓を紹介しているか、評価をする。 ・「徒然草」の魅力について自分の考えを書く。 	<p>できる人生訓及び章段を紹介している。))</p> <p>◇作者の考えと自分の知識・体験を結びつけて、悩みに応じた章段及び人生訓を紹介している。</p> <p>◇発表を集中して聞き、感じたことを素直に表現している。</p>
--	--

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ・悩みに応じた章段及び「人生訓」の選択について、自分の考えを伝えようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- ・悩みに応じた章段及び「人生訓」を、根拠を明らかにして選択することができる。(読むこと エ)

(2) 本時の学習活動

前時に引き続き、「徒然草セラピー(前項の指導計画を参照)」に向けて班ごとに話し合い、章段の内容理解を深める。一人一人の意見を共有し、「悩み」を解決する最善策を考える。

(3) 本時の展開(5時間扱いの4時間目)

学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
<p>○本時の学習の見通しをもつ。</p> <p>A1：自分の知識や体験と古典を関連づける。</p> <p>→B1：班で話し合い、悩みに応じた章段及び人生訓を選択する。「なぜ、この悩みに対し、この章段及び人生訓がよいのか」根拠を明らかにして、班の中で意見を交流し、最終決定をする。</p>	<p>○あらかじめ板書しておく。</p> <p>本時の目標 中学2年生の悩みに応える「徒然草」の「人生訓」を考えよう。</p> <p>○前時の話し合い(=各章段の内容理解・その章段から導き出される人生訓を考える。)をもとに、自分たちの班が選んだ悩みに応じた章段及び人生訓を選択させる。悩みを解決する章段は、複数選択してもよい。</p> <p>○最終決定する前に、意見交流を活発に行い、いろいろな立場から考えて、悩みに応じた人生訓を導き出させる。</p>

<p>A 2 : 本時の学習を振り返り、次時に生かす。</p> <p>→B 2 : 話し合いを振り返り、それぞれの班の話し合いの様子や感想を全体で共有し、次時の学習に生かす。</p> <p>○学習の振り返りを行う。</p>	<p>◇話し合いにおいて、自分の考えを積極的に伝えようとしている。</p> <p>◇班で出た意見1つ1つを比較・統合しながら、悩みに応えるのに最もふさわしい「人生訓」を選択している。</p> <p>○話し合いを振り返らせ、よかった点や困った点など、様子や感想を発表させる。</p> <p>◇自分の班及び他の班の話し合いの様子を振り返り、次時の学習に生かそうとしている。</p> <p>○本時の目標に照らして振り返りを行う。 (自己評価プリント)</p>
---	--

「徒然草セラピー」で扱う章段 ※(ビ)は、「ビギナーズクラシック」に出ている言葉

①「神無月のころ」(第11段)

趣がある素敵なたたずまいの庵に心を奪われ、ここに住んでいる住人はさぞかし立派な人であろうと感心している作者であったが、周りを厳重に囲ってある蜜柑の木を目にしたとたん、失望をしてしまった。人間の欲というもののはちよとしたところに表れるものである。人間の独占欲や自己中心的な気持ちの表れを感じ取り、以下のような人生訓を導き出されることが期待できる。

【人生訓】

→(ビ) 蜜柑の木を囲う独占欲

- ・ 欲深いことは時に残念。人の価値を下げる。
- ・ よいことはみんなで共有しよう。
- ・ 独占欲が強すぎることはよいことではない。
- ・ ちよとしたことで見える、人間性
- ・ 自分さえよければよいという思いは捨てよう。

②「いづくにもあれ」(第15段)

旅行は、「非日常」を味わうことができるものである。自分の家から少し離れてみると、今まで出会ったことのない、「未知」のものと向かい合うことができ、新鮮な気持ちになることができる。それが旅の魅力である。日常生活を忙しく過ごす現代人にとって、「旅」は時々必要なものであり、心をリセットするヒントが「家を離れてみること＝旅」に隠れていることに気づかせたい。毎日、行事や勉強、部活動に追われ、慌ただしい時間を過ごしている中学生にも、共感できる部分があると考えた。

【人生訓】

→(ビ) 旅は心のシャワー

- ・ 時に家(いつもの場所)から離れることも必要。
- ・ 離れて気づく有難さ

- ・旅は心をリフレッシュ（リセット）してくれる。

③手のわろき人の（第35段）

「自分に自信がもてない」という悩みを抱えている人はいるであろう。この章段では、字の下手な人を例として挙げているが、そのほかの事柄にも当てはまる内容である。自分という個性を大事にし、自分のよさを生かすことについて述べられている。余計な見栄を張ることなく、ありのままの自分で勝負すること、変なこだわりを捨てること、という作者の思いに気づかせたい。

【人生訓】

→（ビ）悪筆は個性の表現

- ・自分の個性を受け入れよう（生かそう）。　・小さなプライドは捨てよう。
- ・人は人、自分は自分。（他人と自分を比べない。）

④仁和寺にある法師（第52段）

「知ったかぶり」、「思い込み」は恐ろしい。この章段に登場する法師のような経験は誰にでも起こりうるであろう。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」まさにこの言葉がぴったりの章段である。多くの参詣者が山へ登っているのを目にして、疑問に思ったときに、一言「山の上に何があるのか。」と尋ねていけば、このような大失敗は起らなかったであろう。独断の恐ろしさや人に聞くことの勇氣、その道の案内人の必要性など、自分の経験を振り返りながら、人生訓を導き出してほしい。

→（ビ）独善の悲哀

- ・ちょっとしたことにもその道の案内人は必要である。　・独断（勘違い）の恐ろしさ。

⑤久しく隔たりて（第56段）

人との会話や話し方は、その人の人格を表す。同じ内容を話すにしても、話し方一つで、周りの反応が変わってくるのは実に興味深く、恐ろしくもあることである。この章段は、単なる会話のマナーをテーマとしているのではない。会話という一つの手段を通して、人に対する思いやりの大切さを伝えようとしている。友達や家族、先生に対する話し方を振り返らせ、共感する部分があるとよい。人と会話をする上での注意点を人生訓として掲げてもよいが、さらにその先にある、相手に対する思いやりに触れた人生訓が考えられることを期待したい。

→（ビ）会話のマナー

- ・聞き上手は話し上手。　・話すときは相手のことを考えよう。
- ・相手への思いやり。　・謙虚さが人格を表す。

⑥ある人、弓射ること（第92段）

「次があるから大丈夫。」人は誰しも、物事を進める際に、手元にある代替物や次の機会

に頼り、目の前のことに対して、心の甘えが出てしまうときがあるだろう。いついかなる時も、「これが最後の機会。次はない。」と、自分に厳しくあることの重要性を伝えている。生徒も今まで、部活動や学習に取り組む際、「失敗しても、次の機会に頑張ればよい。」と、どこかで甘い心をもってしまうことはあつただろう。目の前のことに全力で取り組むことの大切さや自分に厳しくあることに気づかせたい。また、弟子に厳しい言葉をかけた先生の立場から考え、弟子への愛など指導者としての考えが導き出されてもよいだろう。

→ (ビ) 決心即実行の難しさ

- ・ 思い立ったら即実行。 ・ いつも本番と思って行動しよう。(臨もう。)
- ・ 次があると思うな。

⑦ 高名の木登り (第109段)

「油断大敵」この言葉がびつたりな章段である。易きところで気が抜け、大きな事故へとつながる。人間の心をうまく表している。この章段は、木登り名人の妙技を讃えたのではなく、弟子の心の動きを読み、的確な指示を出し、弟子を気遣う姿に感動したという話である。易きことほど慎重に行うことの大切さに気付く生徒が多いであろう。また、本当の名人と呼ばれる者は、細かな気遣いのできるものであるという、名人の立場を考慮した人生訓を導き出してもおもしろい。

→ (ビ) 安心にひそむ危険

- ・ 最後まで全力で行う大切さ。 ・ 簡単なことこそ慎重に行うべし。
- ・ 河童の川流れ (ことわざ)

⑧ 双六の上手 (第110段)

人間、欲が出ると自分の思うようにはいかないことが多い。勝負事に挑む際、平常心で臨むことがいかに大切かを説いている章段である。また、作者は名人の振る舞いを政治と重ねて捉えている。その道に長けている者は、欲を出すことなく、人格を磨き続けるものである。部活動や定期テストなどで、同じような場面に遭遇したことがある生徒もいるだろう。今後、何かに勝負を挑む場面において、どのような心構えで臨めばよいか、助言するような人生訓が導き出されることを期待したい。

→ (ビ) 勝つと思うな。負けぬと思え。

- ・ 勝負は欲をおさえることが大事。

⑨ 貝を覆ふ人の (第171段)

何か大きなことを成し遂げたいと考えている時は、まずは、自分自身を見つめ、自分の足をしっかりと固める必要がある。自分の努力なしには成果は得られない。他人に何とかしてもらおうと、「他力本願」では物事はうまく進まないと言っている。なかなか、成果が得られず、もどかしさを感じている生徒も多いだろう。そんなときに、背中を押してくれるよ

うな、人生訓が導き出されるとよい。

→ (ビ) 自己本位を貫け

- ・今を大事に生きろ。 ・脱・「他力本願」！ ・一つのこと集中して取り組み。
- ・灯台下暗し (ことわざ)

⑩園の別当入道は (第231段)

章段に出てくる料理の達人の行動を嫌味であると、作者は指摘している。確かに、自分の特技を人に見せつけたいと思う心は理解できる。ただ、それをあからさまに態度に出すのはいかなものかと説いている。本当の天才というものは、自分の才能をあからさまに人に見せないというのが、作者の考える「人格者」なのだ。自分の能力を認めてもらいたいと思う心は、自然ともっているものだと考える。それをはっきり示さずに、さりげなく相手にわからせるのは、なかなか至難の業であろう。友達や家族との何気ない会話のなかで、相手の言うことが「鼻につく」という経験が一度はあるのではないか。「態度が大きい。」とよく言われるなど、調子に乗りやすいタイプの人に対して、どんな言葉を送ることができるか、考えさせたい。

→ (ビ) 無技巧の技巧

- ・能ある鷹は爪を隠す。(ことわざ) ・でしゃばることは下品。控えめな姿勢は上品。
- ・謙虚な姿勢が大切だ。 ・本当の天才は才能をひけらかさない。

⑪丹波に出雲といふ所 (第236段)

ほのぼのとした話であるが、最後の一行に作者の冷静なものを見方が感じられる。勘違いをした上人にとっては、非常に感動的なできごとであるが、真実を知った直後、それは滑稽なできごとへと変わる。勘違いは恐ろしいことであるが、狛犬の位置一つで、こんなにも想像を膨らませ、感動的なものと捉えられる上人の素直な心は讃えたいものである。この場合、真実を教えた方がよかったのか否か、生徒がこの滑稽話をどう捉えるか。上人、参詣者、神官。それぞれの立場を考慮し、さまざまな人生訓が導き出されることを期待したい。

→ (ビ) ずっこけた感涙

- ・全ての真実が正しいとは限らない。 ・やさしい時も時には必要だ。
- ・真実を教える (知る) ことが幸せとは限らない。 ・勘違いの恐ろしさ
- ・涙は人を誘う。 ・知らぬが仏 (ことわざ)

⑫人の心素直ならねば (第815段)

兼好法師は「徒然草」という作品において、人間の心の在り方、行動についてさまざまな視点から論じている。本章段は、具体例を挙げて、人間の本质とは何か、人間の本性を鋭く指摘している。日々、あらゆる葛藤を抱えているであろう中学二年生が本章段をどのように解釈するか。いろいろな刺激を受け、学ぼうとする中で、どのように学ぶかが大切であると

作者は説いている。自分の行動に迷いが生じたときに、どのようにすればよいか考える手立てとして、この章段を読み、「相手から学ぶこと」についての「人生訓」が導き出されることを期待したい。

→ (ビ) 偽善も善、偽悪も悪

- ・朱に交われば赤くなる（ことわざ） ・「学ぶ」ことは「まねる」ことから始まる。
- ・他人の行動から学ぶことがある。 ・人間の数だけ、考え方がある。
- ・相手のよい所に注目し、認めることの大切さ